

## 第5回 有田町立小中学校適正規模適正配置審議会

### 1. 【開会】

事務局：皆さんこんばんは。時間になりましたので、第5回有田町立小中学校適正規模適正配置審議会をはじめさせて頂きたいと思います。最初に、栗山教育長より挨拶を頂きたいと思います。

### 2. 【教育長あいさつ】

教育長：皆さんこんばんは。夜分にお集まり頂きましてありがとうございます。朝夕だいぶ肌寒くなってきておりますが、皆さまお元気でお過ごしのことと思います。22日、先週の日曜日ですけど、有田中部小学校の創立150周年の記念の式典がございました。いろんな方に来て、祝って頂いたわけですが、この中にも出席頂いた方もおられます。大変ありがとうございました。改めて、多くの方々に、地域の方含めて支えられて、その伝統と、歴史と伝統の上に学校が成り立っているのではないかと感じたところでございました。そういう意味でも、この審議会、非常に大事なところではあるのではないかと思っているところでございます。本審議会も今日で5回目となります。予定では8回となっておりますが、9回、10回になるかもしれませんが、後半戦に入ってきたという捉え方をしているのではないかなと思っているところでございます。今日は、事前に2つのグループに分かれて頂いておりますけど、グループ討議をする中で、審議を深めたり、よりお互いが理解できたりといった形になればということで、こういう形を取らせて頂いております。リラックスして、多くの意見を出して頂ければと思うところでございます。先程も申しましたけども、後半戦に入りましたので、少しずつ焦点化していく形になっていけばいいなという期待感を持っているところでございますので、どうぞ審議の方もよろしく願いしたいと思います。終わります。

### 3. 【議事】

事務局：それでは、3番目の議事に入っていきたいと思います。これよりの進行は、中島会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

中島会長：皆さんこんばんは。今、教育長からもお話があったように、だいぶ回を重ねてまいりまして、やや意見がまとまりつつあるのかなと思います。前は「暗い話ばかり」ということがありましたので、今日は少し前向きな方向でお話、協議頂ければと思いますのでよろしくお願いします。

たします。議事の方はですね、まず前回審議会の確認をして頂いて、その後、グループ協議に入りたいと思いますので、よろしく申し上げます。それではまず、前回審議会の確認について、事務局説明をお願いします。

事務局：皆さんこんばんは。前のスライドをご覧ください。これは文部科学省で出している「新しい学校」のイメージ図です。20枚を繰り返し映していきますので、協議の合間で見て頂ければいいかなと思います。この審議会の先には、老朽化している学校施設の建設が必ずあって、新しい学校施設とその中で行われる日々の学校教育は町内の子育て世代の定住、そして有田町内への移住を考えるきっかけづくりになると思っています。そういった意味でも今後の審議、大変な審議にはなりますが、よろしく申し上げます。では、議題として、前回お話しした分の補足説明を1点だけさせていただきます。国庫補助を受けた場合に、補助金の目的を達成する年数として、校舎は47年間となっていることを説明いたしました。このことについてもう少し詳しく説明いたします。平成20年の文部科学省の通知によると、急速な少子高齢化の進展、産業構造の変化など社会経済情勢への変化に対応するために「補助金を使って学校施設を造ったとしても、10年以上経った施設であって、学校の統廃合に伴って学校教育以外の用途に無償で譲渡する場合は国へ補助金の返還をしなくてよい」ということになっております。ここの説明を詳しくしていませんでしたので、すみません、今日説明させていただきます。ただ、10年経ったから他の施設に転用していいのかというところが、行政職員としては疑問に思うところです。というのも、補助金と絡んで地方債という借金をして建物を建てていて、それが20年償還とかになっています。償還も終わらないまま学校施設とは別の施設に転用するというのはちょっと考えにくいかなと、事務局としては思っているところです。そのため、これまで説明してきましたように40年、50年先を見据えて、子どもたちが「明日も通いたい」と思うような魅力のある学校はどうあればいいかということで審議をまとめていって頂きたいと思います。よろしく申し上げます。

中島会長：ありがとうございます。それでは、今からグループ協議に入りますが、その進め方について事務局の方からお願いします。

事務局：皆さんお疲れさまです。この時間になってのお集まり頂き本当にありがとうございます。グループ協議の話についてですけど、前回、審議会の中で、こちらからパターンをいくつか提案して皆さんの意見を出して頂きましたけど。その中でなんとなく「パターン4がいいかな」という意見の方が結構多かったですけど。それでいくと、中学校に関しては、今、西有田中学校の校舎が非常に怪しいレベルになっておりまして、こちらについては建て直し待ったなしの状況です。

西有田中学校もですけど、有田中学校も大差ない感じになっておりますので、まず中学校を一緒にして建て直すのか、それともそれぞれ建て直したほうがいいのかというところを軸にして、皆さまにグループ協議をして頂きたいと思います。その時に、判断基準というか、気になるところとして、前回までにこちらの方からお出した資料としては、部活動とか教員の配置とか、あとクラス数、そういったところが判断基準になるのかなとは思っております。まずはそれぞれのグループで、中学校をどうしていくのかというところを話し合いして頂けたらと思います。そちらの方にある程度目星がつかましたら、小学校の方にもちょっと視点を広げて頂いて話し合いを続行して頂けたらと思っております。よろしくお願いいたします。

中島会長：よろしいでしょうか。まずは中学校について、どういうふうにしていくのかということについて協議をお願いしたいと思います。前回ありましたように小中一貫校だとか、義務教育学校だとか、そういうのにするという考え方もあります。中学校の統合ありきではなくて、そういうことも含めてお話をして頂ければと思います。後ほど、それぞれのグループで話し合っただけのものについて発表をして頂きますので、いわゆるリーダーを決めて頂ければ幸いかと思います。よろしくお願いいたします。

委員A：すみません、話し合いの時間は何時まで。

事務局：時間の配分ですけど、まず中学校についての話を約30分程度。もうすぐ15分になりますけれども、45分ぐらいまでを1つの目安にしてまず話をして頂ければと思います。今日は2つのグループに分かれております。受付のところで、今日のグループ協議の司会進行をお願いしております。申し訳ございませんけれども、協議の進行の方をお願いしたいと思います。それから机の上には、模造紙とか付箋紙も用意しておりますのでそれに、いろんな意見があると思いますので自分なりに書いたものを、広用紙に貼って頂ければと思います。地図も用意しておりますので、大体の今の学校位置というのがこれでわかるのかなと思いますので、その辺りも参考にして頂きながら協議を深めて頂きたいと思います。それでは協議の方をお願いします。

#### 【グループ協議】

事務局：すみません、一応、ここで切らせて頂きたいと思います。それぞれのグループから発表をして頂きますけども、ここからの進行は、中島会長さんをお願いしたいと思います。

中島会長：それでは1班目から、よろしいですか。

委員B：いろいろ話し合う中で、最初パターン4が多かったという意見のところから話をしていたけど。「本当にパターン4だけでいいのか」というところも出てですね。例えば「パターン4にこだわらず『西地区だけ小中一貫、有中は建替え』という選択もあるのではないか」という話がありました。それと後は小規模の中学校を2つ造るといふ、その場合は小学校だけの合併になりますけど、そういった意見も出ました。ただ、「環境としてはどんなパターンになっても、子どもはその中で育つのではないか」という意見が凄く明るい材料だったのではないかなと思いました。小中一貫であったり中学校の合併だつたりを考える中で、そうした場合、結局「外側がどんどん遠くなって、そこの人がますます少なくなるのでは」とか、そういう意見もあつて。こういった辺りになると、学校だけでなく、やっぱり町として、今後人を増やすためにとか、そういう施策をどう作られるかというところが、ここの中で話をするのが難しいかなと感じています。中学校に関しては、勉強の方は小中一貫でも合併しても、その中でやれるかなというところはありますけど。やはり社会体育の方は一緒にして、それを保っていけたらというところがあります。私たちの中には小中一貫というのもあつて、「西地区と東地区、これが違つても特別問題ないのではないか」という話がちょっと進んでいました。旧有田地区の小学校2つと中学校1つを残す。そうやって旧有田の、特に有田小学校は少ないですけど、特色のある学校を作つて、町内に2つのやり方があつても問題ないかな、それもいいかなと。有田町の中で子どもが学校を選べるというふうに考えたら、そういう柔軟性もいいのではないかというお話をしていたところです。最終的にちょっと金額の話とか、これをもう1回見直してはいたけど。私たちが気になるところが、有田町が合併して、20年近くですかね、経つと思いますけど。学校の合併を考えた時に、「大山小学校と曲川小学校の合併は考えられる。で、有田小学校と中部小学校の合併は考えられる。けど、中部小と曲川小の合併、これはやっぱり考えられないね」と。そこにはこれまでの歴史とか、いろいろあるかと思いますが。そこを考えた時に、「西地区は小中一貫、東地区は今のまま」つていうやり方をした時に、ずっとこの私たちのこの、「なんとなく旧有田と旧西有田は違うよね」という差が埋まらないかなという意見が出て。それを考えた時には、「やはり中学校は合併した方が今後、もしかしたら有田町の発展のためには、子どもたちがすごく過ごしやすいまちづくりなのではないか」という話が出たところです。小学校、中学校併せた話になりましたけど、おおよそそんな感じですよ。あとは、できた後のサポート面。通学にしる社会体育にしる、そこをしっかりと頂ければどんなパターンでもいいかなと話していました。以上です。

中島会長：ありがとうございます。2班目、よろしいですか。

委員C：私の方から報告をいたしますけど、不足する分は補って頂ければと思います。まず、中学校のことで、理想なのはやっぱり地元のそのまま有中、西中、あるのがいいですけど。今この少子化の時世の中で、やはり「統合せざるを得ない」というのが皆さんのご意見で。その理由は、やっぱり中学校の教科スタッフが、ちゃんと常勤の先生が維持できるラインを是非とも確保した方がいいということ。それから部活動についても、地域移行するにしても、ある程度の人数がいらないといけないということで。いろんな面で「学校の活性化ということからいけば統合すべし」という意見になっております。ただ、そしたらどこに学校を造るかという問題になってきますけど。学校の位置によっては周辺部の保護者、子どもが「そんなに遠くなるなら武雄市の県立学校に行った方がマシだ」とか。その中に流出していくようなことになったら元も子もありませんので、そうならないためには、新しく造る統合の中学校は魅力のある学校でないといけないということで、単に統合するというだけじゃなくて、例えば有田町の総合計画で、「人がつながり、人が集う、世界に誇れる町有田」ということで10年計画が立てられていますけど。地域に開かれ、地域の人たちもその学校に来て、生涯学習ができるような施設と一体化したような。ちょうど今スライドで出している文科省の資料、あれを見ながら私もイメージしたところですけど。例えば今、有田町の図書館、東と西に分かれてありますけど、もっと図書館を住民の方に活用して頂くために、統合した中学校に併設して有田町の図書館、学習センターみたいなものを作って「学校の生徒、教師だけじゃなくて、地域住民の方々もそこで学び学習できるような、みんなが集まってくるような学校、そういうものを造って、『あの中学校なら行こう』と、みんなが、少々通学条件が悪くとも、『絶対地元の学校にやりたい』と保護者に思ってもらえるような学校づくりを考えていかなければいけないのではないか」という意見も出ました。先程のグループから出ましたが、東と西で、やっぱり、未だになんとなく、距離感というのが感じられることがありますけど、中学校が統合することによって、旧有田の歴史と文化、旧西有田の歴史と文化、そういうものを融合していく大きな組織に生まれ変わっていく、そういう可能性もあるのではないかと、ということで、「歴史と文化の統合という点からも統合中学校が望ましいかな」という意見も出ました。あと、小学校の方ですけれども、有小と中部小については、人数のアンバランスというものがあります、学校の大きさの違いもありますけど、前の審議会でもなたかも言われましたが、「有田小ならではの特色ある学校、地域と一体化した、そして少人数で、一人ひとりの意向に応じた教育という、そういう教育風土を希望する子どもがいらっしやればどんどん受け入れる。そういうふうにして今の校区のラインというのをもっと緩めて受け入れていく、そういうシ

システムを作れないものか、いろいろ人事異動の問題等もありますけれども、そういうのをクリアしていけるようなシステム作り、それをしたらどうか」という意見が出ました。あと、曲川と大山については、本当に校舎が古くてしかもどんどん減っている中で、統合していくことが必要で。その後、今の西有田中学校の位置になってくるのかなど。そしたら中学校の建設が先か、中学校の運動場に先に統合小学校を造るか。その辺のことまで検討していかなければならなくなりますけど。いずれにしても統合するにあたっては住民の方に対する説明が丁寧になさなければ、なかなか賛同は得られませんので、しっかりとしたデータを示しながら説明会の場を準備していくことが必要だろうと、そういうことが出ました。他にもいっぱい出たような気がします、何か付け加えることがあれば。以上です。

中島会長：ありがとうございました。両班とも有田のこれからの在り方というか、そういうことを見据えた学校の編成をお考え頂いたと思います。昔、致遠館高校ができた時に、他のところのない校舎を造ってあります。それがために佐賀県全体からそこに行きたいということで集まって、他県からも視察が毎回のようであった、そういう状態がありました。だから、せつかく統合して新しい校舎を造るなら、とにかく他のところのないような施設、先程「図書館と一体化した」というような話も出ましたけど、そういうのも1つ、町の施設を一体化するような、他に古い施設があれば、保健関係の施設だとか介護関係の施設でも、あるいは幼稚園関係、そういうのでも。古くから新しくせんといかんというものがあれば、そういうのも含めて総合施設的に造るというのも1つのあり方かなと思います。とにかく、学校は安全安心な場、それも子ども達のみならず地域の人たちにとっても安全安心の場になっていくというのが、これからのあり方だろうと思います。実はあちらこちらで震災が起こった時に、一番活躍したのは学校です。町とか市の職員がその地域に入るより前に、学校は施設を解放して、そこに地域の人たちが逃げ込んで、そしてその人たちの音頭を取るの先生です。だから、最初にそういう安全安心な場、地域の間として立ち上がるのは学校であり、先生たち、だからそれを実現できるような施設を考えていかないと、学校自身が震災にあうような形ではあんまりこれから役に立たないかと思えます。そういうところも含めて少し考えないといかんだろうと思えますが、中学校を例えば一緒にして、どこに造るかということになると、これまたなかなか難しいところかなというふうに思えます。これは有田町の総合計画の中でどういうところに持っていくのかということも考えていかないとと思えますし、小学校を統合するというにしても、これはどこにどういうふうに持っていくと、そして交通をどういうふうにするのかということも、また考えていかないといかんと思えます。どこだったか

忘れましたが、JRの沿線で、JRがもう廃止になるということで、そこは線路を道路に換えて、そのところでバスを走らせるようにしたそうです。そうすると、今までよりも便利になったと。要するにJRですから、停まる場所は限られていますけど、バスだとバス停をいっぱい作ることができるので、非常に便利になったという話がありましたけども。そういうのも参考にしながら、スクールバスを持ってくるのも手でしょうけど、そういう公共交通機関を有効に活用するというのも併せて考えていかなければいけないだろうと思います。本当は町自身が画期的な活性化策を考えて、佐賀県のみならず全国から人々が集まるような施策を考えて頂ければ、こういう統合云々は考える必要もないでしょうけど。しかし日本全体として、少子化の波がやってきている中であってみれば、やはりそれぞれのところで将来のことを考えながら統合も併せて考えていかざるを得ないかなと思います。委員の皆様方、非常に真剣なまなざしで捉えて、今後の話をして頂きましたので、今日もありがとうございます。それではその他ありますか。

事務局：長時間に渡りまして、ご協議ありがとうございます。レジュメの一番下のところに書いていますけれども、第6回目の審議会を11月30日の木曜日に予定しております。今日出して頂いた意見を元に、ちょっと案的なものを作っていこうと思いますので、次回でご協議をお願いします。

事務局側で今日のご意見をまずは再度拝見させて頂いて、前に進めていきたいと思っております。

中島会長：では皆さん、どうもありがとうございます。

委員B：すみません、1個お伝えしたいことがありますけれどもよろしいでしょうか。今度の土曜日と日曜日、PTA九州大会の佐賀県大会というのがあります。実行委員のメンバーに入っている人がここにもいますけど。佐賀県大会の分科会が今度28日の土曜日、武雄市文化会館であるようになっていて、それが武雄市と西松浦郡担当となります。今までPTAだけでの大会でしたけど、今年は地域の方も、来られる方はどうぞということで。今日の佐賀新聞に載っていましたか？佐賀新聞にPTAのことが載りますけど、その中で、九州大会の情報がありますので、興味のある方は、土曜日のお昼から武雄市文化会館でありますのでよろしくをお願いします。

事務局：それでは、これで終わりたいと思います。皆様お疲れさまでした。 【終了】